

---

# 愛す人と花火(起)

ブータロー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛す人と花火（起）

### 【Nコード】

N4517C

### 【作者名】

ブータロー

### 【あらすじ】

夏になった。花火だ僕白鳥任三郎は花火と言えば佐藤さんを書いていきます果たして佐藤さんを花火に連れていけるのだろうか？起承転結の四つのうちの二つストーリーです

(前書き)

この小説は白佐です

ここは、米花市の某町。

警視庁のあつてコナン達が在宅する街。

この大きな街にとある一人の女刑事が住んでいる。

誰からも信頼されていて活発な女性<sup>ひと</sup>。

そして、警視庁でも人気であり性格も優しい。

そんな珍しい人種である佐藤美和子はある一つのマンションに留まっている。

いつもなら警視庁で仕事を行っていたものの今日は非番で休んでいた。

そんな彼女の一日ももう過ぎていく。

ちょうど夜になって来たころ、いつもなら来る事の来客が訪れた。

「えっ・・・？」

突然佐藤刑事がびっくりした様子でつぶやく。

玄関で立ち止まっている佐藤刑事が話している相手に驚いている表情を見せる。

「いや、今日某町で花火が見れるからいっしょに行きましょ」と誘

っているんですよ……。何か？僕じゃダメですか？」

ブレザーを着た男性がものすごく丁寧な敬語を使う。

彼。・白鳥任三郎はさびしそうな表情を作って佐藤刑事に訴える。

「いや、別に私としてはいいけど……。でもなんで急に……。今日家に来るなんて言われていないのに急に来られても戸惑ってしま  
うわよ……」

佐藤刑事はちよつと困ったような表情にしてぼやく。

足を組んで片手を壁に置く。それから急に訪問しにきた白鳥警部を  
見つめる。

「それになんで私なの……。？」  
首をかしげて不可思議そうに聞く。

(えっ……)

白鳥警部の顔が真っ赤になっていく。

表に表情を見せない白鳥警部は赤らめた表情を隠そうとする。

そして、心の中のアたふたを隠そうと喋ろうとする。

「いやあ、あのですね……。いろんな事でつらい思いをしている  
じゃないですかあ……。佐藤さんにもたまには息抜きして欲しいん  
です。仲間として心配でね……。まあ、今日非番ですし、家に居て  
も何もありませんよ？さあ、行きましょう！ー！」

白鳥警部は佐藤刑事を宥めるように諭す。

本心は、”佐藤刑事を愛す”から花火にいつしよに行きたいのだが、とっさにもっともな言い訳をする。

佐藤刑事は、黙りこむ。

しばしの沈黙が続いた。

まだ花火が始まるまで時間がある。それまでしばらくの間玄関の前で黙っていた。

付き合いのきっかけの花火はまだこれから？

(後書き)

ブータローです

この小説は起承転結で投稿します

別モノで白佐かいてしまいました。

夏休みに全部かくのでよろしく願います

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4517c/>

---

愛す人と花火(起)

2010年10月15日17時10分発行